

熱中症特別警戒アラート発表時の対応について

近年、広域的に過去に例のない危険な暑さ等となることが報告されています。これは、人の健康に係る重大な被害が生じる恐れがあるためです。そこで、危険な暑さから身を守るため、熱中症運動指針をもとに下記のとおり対応します。

ご家庭でも熱中症について話し合い、ご確認いただくとともに、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

記

■ 授業日に「熱中症特別警戒アラート」が発表された場合。

※ 「熱中症特別警戒アラート」の発表は、前日14時に発表。

(環境省熱中症予防サイトで確認できます。)

「熱中症特別警戒アラート」とは・・・

翌日の日 最高暑さ指数(WBGT)が35(予測値)に達する危険な暑さ等になり、人の健康に係る重大な被害が出るおそれがある場合に発表されます。

○ 臨時休校とする。

■ 夏季休業中に「熱中症特別警戒アラート」が発表された場合。

○ 登校日の登校はしない。

○ 陸上練習は中止。

■ 下の環境省の示す指針を元に、学校では屋外での運動・水泳学習・外遊びを中止の基準としています。これ以外に、熱中症警戒アラート(WBGT33)、熱中症特別警戒アラート(WBGT35)が都道府県に発表される場合があります。

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31～	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31～35℃	28 ～ 31	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28～31℃	25～ 28	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24～28℃	21～ 25	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	～21	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

※ 必要に応じて、学校情報配信アプリ(Home&School)で連絡いたします。熱中症情報等の詳細については、テレビ、ラジオ、インターネット等で情報をご確認ください。